

# 千葉県建築文化賞

## 第19回表彰作品集



2012年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成24年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、居住環境や建築文化に対する県民の意識の向上と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されたものです。

第19回目となる今年度は、74点の応募をいただき、千葉県建築文化賞選考委員会による厳正な審査の結果、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞3点が選定されました。

受賞作品は、いずれも良好な景観形成や建築文化の向上につながるものであり、また、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に貢献していくものと期待しております。

さて、県では、総合計画「輝け!ちば元気プラン」に基づき、計画の基本理念である「くらし満足度日本一」を目指した取組を進めております。千葉県建築文化賞表彰制度もこの取組の一つであり、県では今後も、千葉県のさらなる飛躍を目指し、「チームスピリット」の精神を発揮して、だれもが安心して快適に暮らせるまちづくりを進めてまいりますので、県民の皆様の御理解と御協力を宜しくお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝を申し上げますとともに、受賞者並びに応募いただいた皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

平成25年3月

## 目 次

千葉県建築文化賞について	1	雑木林のまち	7
第19回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	柏市立柏の葉小学校	8
大多喜町役場庁舎	3	Mアパートメント	9
桜井邸／多面体の屋根 館山	4	ワーズワース佐原店	9
さくさべ坂通り診療所	5	アース・ブリックス	10
南流山の家	6	千葉県建築文化賞の選考の基準	10

# 第19回千葉県建築文化賞選考経過と総評

## 応募74点から9点入賞

### (選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第19回千葉県建築文化賞は平成24年6月の委員会で募集要領を定め、7月上旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数74点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より34点減少した。景気低迷がつづき、東日本大震災の復興に追われる現状では致し方ないことである。きびしい情勢のもとで建築文化向上のためにご協力いただいた方々に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門6点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門4点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募されている場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞3点を表彰候補作品として決定した。今回の授賞作品はいずれも中小規模の建築物であり、住宅が4件含まれている。派手さはないが、密度の高い作品に恵まれたと考えている。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		42	6	2	2
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		11	3	2	0
環境に配慮した建築物		21	4	2	1
合計		74	13	6	3

### (総 評)

#### 景観上優れた建築物

景観部門への応募は42点で、昨年度の73点を大きく下回った。公共施設と住宅に佳作が多く、授賞作品のうち2点は保存・修復に関係するものであった。

建築文化賞の「大多喜町役場庁舎」は、今井兼次の設計による旧庁舎(竣工1959年)の改修と増築であり、近代建築へのオマージュを込めた改修と、城下町の面影を残す街並みとの調和を意識したシンプルな増築棟のデザインが高く評価された。

「桜井邸／多面体の屋根 館山」は、緩やかに弧を描く砂浜に面して建つ別荘であり、ピロティで支えられ、水平に伸びる開放的な2階から富士山を正面に望むパノラマを満喫できると同時に、多面体の屋根を載せた軽やかなファサードが海辺の景観を心地よく引き締めている。

奨励賞の「ワーズワース佐原店」は、東日本大震災で被災した町家を保存・修復し、飲食店として再生したもので、伝統的建造物群保存地区の復興の一翼を担う作品であり、「Mアパートメント」は、中庭を持つ平屋のワンルーム・ユニットを組み合わせ、街角に配置し、街並み景観の形成をも意図した意欲的な賃貸住宅である。

#### ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は11点であり、昨年より3点少なかった。公共施設、福祉施設、学校などの応募もあったが、今回は診療所と住宅が建築文化賞となった。

「さくさべ坂通り診療所」は、自宅でのがん終末医療をサポートする在宅ホスピスの診療所であり、くつろいだデイホスピスの場となる居間を中心に、精神面も含めたケアを念頭にきめ細かな配慮が行き届いている。ウッドデッキを介して街に開かれたデザインも高く評価された。

「南流山の家」は、三世代の同居を想定した住宅であり、高齢者の生活と家族のコミュニケーションに配慮した小上がりの客間とダイニングが魅力的である。また、木格子を効果的に用いた端正な建築は、開発から35年を経過した住宅地の更新モデルとしても有効である。

#### 環境に配慮した建築物

この部門への応募は21点であり、昨年と同数であった。住宅、公共施設、学校の応募が多く、その中から次の3点が授賞となった。

建築文化賞の「柏市立柏の葉小学校」は、環境をキーワードに掲げる柏の葉地区の先導プロジェクトであり、パッシブデザインを主体に総合的な環境配慮が細部まで行き届いている点が高く評価された。また、地域に開かれた学びの拠点としても質の高い作品である。

「雑木林のまち」は、造成された谷津地形の敷地に3棟の低層集合住宅を配置し、コナラを主体とした雑木林の再生を目指した開発である。伸びやかな敷地計画と長い時間をかけて循環型の住環境形成をはかる取り組みが高く評価された。

奨励賞の「アース・ブリックス」は、土ブロックを構造体とした小住宅であり、環境型の素材を使った挑戦の実験的意義が評価された。

# 建築文化賞

景観上優れた建築物

町民から愛される庁舎

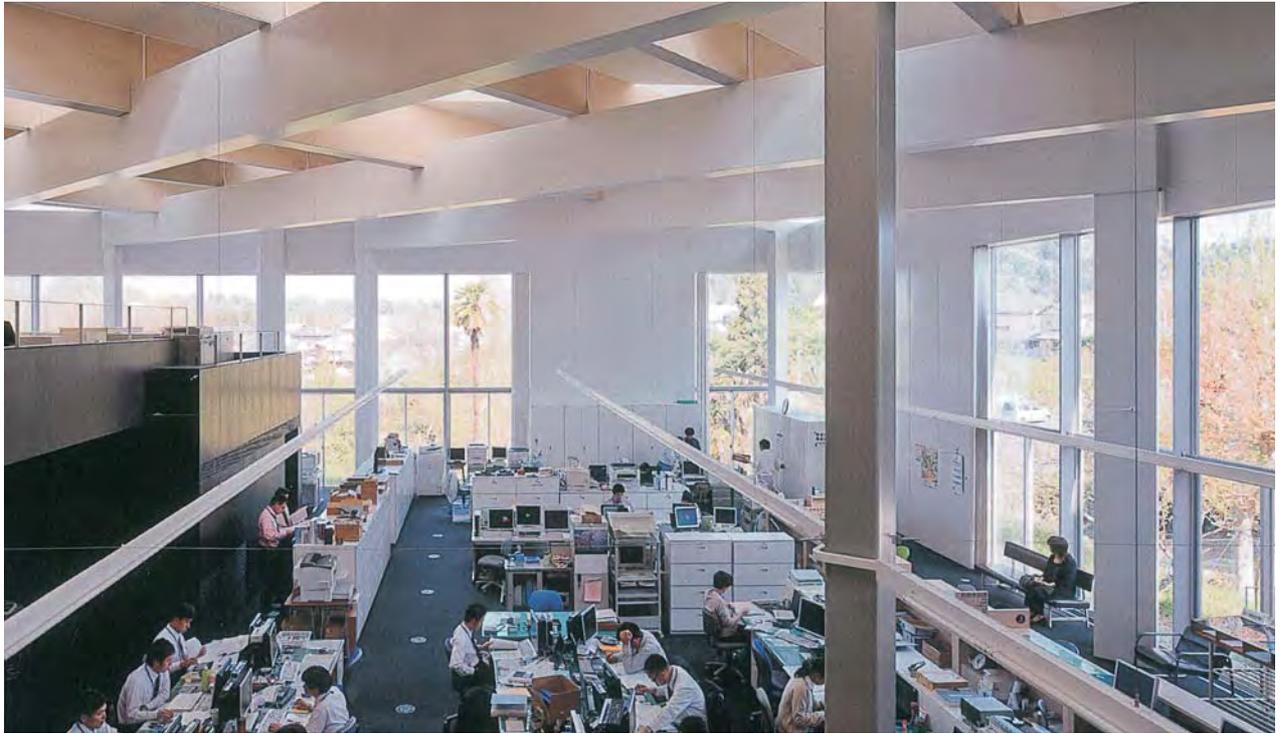
## 大多喜町役場庁舎

建築主：大多喜町

設計：株式会社千葉学建築計画事務所

施工：大成建設株式会社千葉支店

所在地：夷隅郡大多喜町大多喜93番地



増築棟 内観 2階から東方向を見る

(撮影/西川 公朗)

大多喜町は戦国時代から続く城下町である。天正18年(1590)徳川四天王の一人、本多忠勝が大多喜城主となり、防御のための街道がカギ形に整備され、現在も江戸時代の町並みの面影を残している。明治、大正、昭和の時代になっても、夷隅郡の政治、経済の中心であった。そんな歴史のある大多喜町の庁舎が今回の作品である。

旧庁舎は早大教授で建築家、今井兼次の代表作の一つ、1959年度の日本建築学会賞を受賞した建物で、RC造、地下1階、地上1階建の建物である。庁舎が手狭になり、北側隣接地にS造地上2階建ての事務所棟を増築し、旧庁舎とブリッジでつなぐ配置となっている。

景観の観点から見て、増築棟は正方形の建物で事務室の天井は7メートル、一部が2階建ての建物である。外観は平面な建物であるが圧迫感はなく、外壁の鋼板溶融亜鉛メッキリン酸処理仕上げの色相が落ち着いた城下町の

雰囲気と溶け込んでいる。敷地は市街地より小高いところにあるが建物が低層のため、遠くから目立つことはない。

旧庁舎は12メートルスパンの門形フレームが東西に60メートルつづく単純な構造であるが、自然な高低差を活かした建物の配置は、庭の規模、室内からの景観に庁舎らしくない安らぎをあたえてくれる。また、ポーチの蛇行曲線はコンクリート打放しの外観に重厚感を感じさせない。50年以上使用した庁舎の改修に、使用されていたオリジナルの装飾金物や照明器具を再活用した設計者、町関係者の庁舎に対する想いに、建物の外観、内観からも景観上優れた建築物と言える。

(青柳 英俊)



既存棟バルコニーから増築棟を見る



増築棟 東側立面

(撮影/鈴木 研一)

建築主：桜井氏  
 設計：横河健／横河設計工房  
 施工：糸平興産株式会社  
 所在地：館山市正木字干潟1256-1

海岸線に建つ別宅の作法

## 桜井邸／多面体の屋根 館山



建物を抜けて感じ取れる館山の海(東側外観)

(撮影/新建築社)

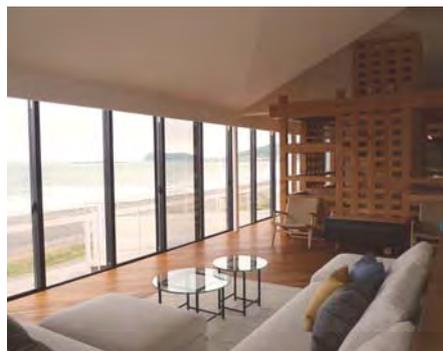
平面形はL字型で屋根が30ほどの三角形からなる多面体をしている。その形が直接天井形状に反映されており、写真を見ると、三角形に分割された任意曲面の醸す内部空間が強烈だ。だが、実際に中に入ると、外の海に自然と目が行く。多面体の屋根はそれ自体の存在を主張することなく、人のいる空間をやさしく包んでいる感覚を与えてくれる。

この家は海を見るためにつくられているかのようだ。ピロティで主階を2階に持ち上げているために、真っ直ぐ見るとちょうどそこに水平線がある。上下動線の階段は、木造立体格子の箱になっている。作者が「環具(環境をつくる家具)」と呼ぶもので、建築と家具の中間的なものといっている。立体格子の環具は、構造的にも役割を果たし、リビングとダイニングを隔てつつないでいる。幅12mの大開口を遮ることなく、リビングにいてもダイニングにいても広い海がそこにある。

この家は、東京に本宅を持つ人の別宅で、館山湾に平久里川が

注ぐ付近の海岸線に建っている。南房総地域は、館山道が通って二地域居住の一方の居所としてほどよい場所になった。誰もが都会にはない海を別宅に求めるあまり、海を一望できる海岸線を独り占めしかねない。海岸線は古来から誰かのものではなく、そこに暮らすみんなでその恩恵を分け合うのが習わしとなってきた。その点、この住宅は、規模が大きいわりには、周りに対して開かれた構えであり、地上レベルではピロティの間から、海に抜ける視線が守られている。以前から暮らしてきた人たちと風景をシェアしようとする配慮がいい。

(岡部 明子)



2階リビングより木造立体格子と館山の海を望む



ロフトからキッチン、ダイニング、リビングを見通す

(撮影/横河 健)

# 建築文化賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

建築主：さくさべ坂通り診療所

設計：加藤武志建築設計室

施工：株式会社中野工務店

所在地：千葉市中央区椿森6丁目8番11号

「人生の最後を住み慣れたわが家で」をサポートする

## さくさべ坂通り診療所



建物のプロポーションを低く抑えることで威圧感のない街並みになじむ外観デザインにしている。

多くの人は「最期を我が家で」と望むが、その8割近くは病院で亡くなるのが現状。その中「がんと診断されても、入院せずに治療を継続し、最期まで住み慣れた自宅での暮らしを続けられるように」、さくさべ坂通り診療所は、がんのホームドクターとして、がんと診断されたときから相談（セカンドオピニオン等）・治療を行う。そして終末期の緩和ケアまで、24時間・365日のサポート体制で医療・看護を提供している診療所である。

静かな住宅地の中、大きな標示板もなく、町並みになじんだ静かな佇まいの外観。草花の咲き乱れる花壇の中の蛇行する遊歩道、ウッドデッキ越しに見える広々とした居間空間。思わず気持ちがほっとする魅力的な「みんなの家」の風情だ。

「お邪魔します」と玄関に入る。左手に診療所の機能を満たす待合室、診察室、相談室、X線室が設けられている。右側の大きな扉の向こうは、杉の板と土や和紙の自然素材でおおわれた素朴でのびやかな居間空間。通常はデイホスピスの場として、また家族の集いや音楽会、レクチャー

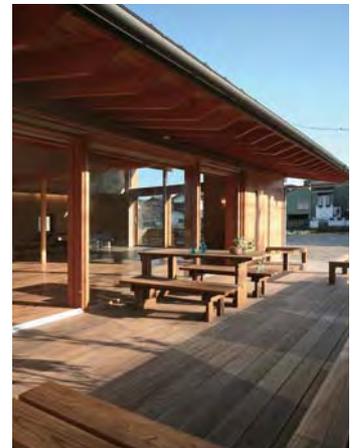
の場としても使われている。休みなく患者をサポートするスタッフの職場でもあり、くつろぎの場にも、と多目的に柔軟に活用されているようだ。

「がん」という病に特化した診療所だが、真実を受容し、前向きに「自立して生きる」ことを支えてくれる診療所の存在は大きな安心だ。このような診療所が、私たちの地域にも、どこにでもあって、必要とするだれもが利用できるようになることを期待したい。

（夏目 幸子）



アプローチは三和土でつくった緑の小道。



深い軒とデッキスペースが中間領域となって家の内と外をあいまいにつないでいる。

（撮影/垂見 孔士）

## 建築文化賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

建築主：工藤 義幸  
設計：丸山耕平建築設計事務所  
施工：常陽建設株式会社（ASJつくばスタジオ）  
所在地：流山市宮園

3世代同居をイメージした質の高い住宅

# 南流山の家



南側外観 木製格子が繊細な表情をつくる。国産材を積極的に使用。

流山市の南部に位置する敷地は、1970年代に区画整理・分譲された土地である。建替えが進む中でひととき存在感のある『木格子の塀とバルコニー』を持つ『南流山の家』である。南側道路に面した庭と2階のバルコニーからは陽が入り、一日中明るい開放感のある住まいである。

現在は若夫婦と幼い子供の3人の住まいだが、将来はお母様との3世代同居となることを前提に計画されている。

建物内部は、1階の中央リビングを挟むように小上がりで掘りごたつのダイニングと将来お母様の個室となる小上がりで畳敷の客間。リビング吹抜けに面して2階の2個室が配置されるシンプルな構成である。その各個室との境界を障子や格子建具とすることで、どこにいても家族の気配がわかるよう工夫されている。それは将来3世代の住まいとなったときも自由に『プライバシーの確保とコミュニケーションの誘発』が行えるようになっている。

また、小上がりや掘りごたつの段差は腰掛けるのに程良い高さとする事で、立ち座りを楽にすると共に建具等を開放しているときも空間をうまく仕切っていると感じた。加

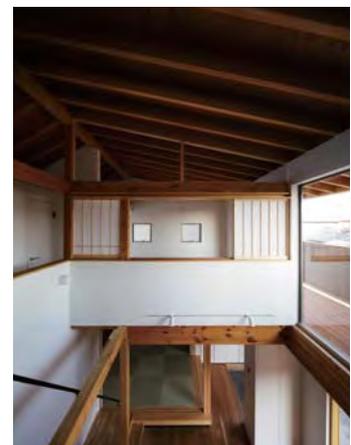


小上がりの客間(将来母親寝室)は、格子建具で仕切る。

えて、単純な空間構成の中であって、手に触れるところは綿密に計画され、丁寧に作られていることで、研ぎ澄まされた空気を感じることができる質の高い住宅である。

まだ現役であろうお母様が実際に同居するのはまだ先のこともかもしれないが、ここに住んでいる様子は容易にイメージすることができる。その時の事情で住居に多少手を入れることも想像できるが、それらを飲み込むことのできる力のあるユニバーサルな住まいである。

(藤本 香)



リビング上部の吹抜を介して、家族の気配を感じる。

(撮影/益永 研司 nacasa&partners)

# 建築文化賞

環境に配慮した建築物

建築主：旭興産株式会社

設計：有限会社ヤクシジ建築デザイン事務所

施工：清水建設株式会社千葉支店

所在地：袖ヶ浦市代宿穴田97-22他

真新しいまちとともに甦る失われた風景

## 雑木林のまち



豊かに醸成していく雑木林(緑)と共生する環境を生活の中で育てていくプログラム(緑の丘東側から)

(撮影/中塚 雅晴)

30年以上前に造成済みの土地で、取得した企業が、社員らの居となる住宅を建設するにあたり、原地形に立ち返って雑木林の再生の一步を踏み出した。1.3haほどの土地に2-3階建ての集合住宅3棟、計30戸である。

アクアラインの千葉県側である袖ヶ浦インターから千葉方面へ約5kmのところ、海岸線は埋め立てられ、ガス・石油化学工場が立地している。この建物群は、内房線と幹線道路を挟んで山側に位置する。もともとの台地と谷津が、あちこちで造成され、戸建て団地や中層の社員寮がパッチワークされている一帯である。高度成長期、そしてアクアライン開通がきっかけとなって、勢いを得た開発行為は、これまで自然地形を著しく改変してきた。この敷地内で自然生態系の再生の成果が目に見えるのはまだ先だが、ただ昔に還るのではなく、起伏のある土地を伝う水の動きがデザインされた吐水口などで演出され、都会的なセンスで台地と谷津のストーリーを再び紡ぎ出している点が示唆的だ。

郊外の住宅供給が急務だった時代、原環境に無頓着な開発が千葉県内で多数行われた。今日ではこれらの場所ですぐに、急速な高齢化と人口減少への適応を迫られている。見方をかえれば空間的にも時間的にもゆとりの増した郊外ライフが広がってきた。原風景を取り戻す方向で郊外を再編することが考えられるが、本作品はそのヒントを与えてくれる。素材やディテールにおいても、手仕事の産物と工業製品を巧みに組み合わせることで、一見ノスタルジックな帰郷のようでありながら、新しく創造されたものにはっとさせられる建築作品となっている。(岡部 明子)



手入れをしながら永く楽しめる素材を使ったインテリア空間



都市的に快適に暮らす環境と雑木林との融合を図った、谷津のシステムを取り入れた全体計画

(撮影/中塚 雅晴)

建築主：柏市  
 設計：株式会社INA新建築研究所  
 施工：関東・永岡特定建設工事共同企業体  
 + 椎名・助川特定建設工事共同企業体  
 所在地：柏市十余二348番地51 中央404街区1

地域に開き、発信する学校環境

## 柏市立柏の葉小学校



住宅地のスケールに合わせ連続する壁面を分節することで周囲への圧迫感を軽減した落ち着いた外観

近年、環境に配慮した建築の枕詞は「低炭素」あるいは「ゼロエミッション」に集約され、本来のサステイナブルな建築が目指していた、環境・社会・経済を統合する総合性が失われつつある。そして、建築を取り巻く周辺との関係性について熟慮した事例は少ない。柏市立柏の葉小学校は、そんな傾向の中にあって、「国際キャンパスタウン」を標榜する新たなまちづくりの先導プロジェクトとして位置付けられた。つまり、当初からその総合性が求められる条件が整っており、公立の学校建築として優等生的な答えが資料に垣間見られる。しかし、上位組織にあたるアーバンデザインセンター等とのやりとりに誠実に、そして創造的に対応した跡が随所に発見できることを高く評価したい。

決してこれみよがしの主張の強いデザインをまとった建築ではない。周到に計画された自然光や素材とのやりとりに心しながら、緩やかにつながる内部空間と中庭空間(スクールプラザ)の穏やかな連携、そして恵まれた立地環境を活かし周辺環境に開いたのびやかな関係性、そして巧みに選ばれた木質系の仕上げ材

や色彩・グラフィックの明るさ、やさしさは、ここで育まれる子供たちの将来に期待を抱かせる。さらに、近い将来隣接地に設置される中学校との連携によって、これから成長する同地域でのまちづくり、ひとづくりの核となることが期待される。

3.11以降顕在化した避難施設としての学校建築のあり方を先取りし、モデル的な施設構成や技術的対応がなされていることも評価されるべきである。今後、地域の人口の増加と共に児童数が増え、定常的な熟成を迎えた状況を見てみたい、そんな秀逸な小学校である。(岩村 和夫)



子どもたちの生き生きとした活動の舞台となるスクールプラザ



スクールプラザと連続した明るく開放的な木の温もりある多目的ホール

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

地域景観の新しいイメージを形成

# Mアパートメント

敷地は地域のシンボルである二宮神社と向かい合う角地である。単身者用住宅(8戸)と食品販売店舗(2戸)からなる木造平屋の建物である。格子状の通路で区切っていった建物ボリュームが十分な広さの土地に規則的に配置されることで、敷地一帯が統一した街並みのような景観を生み、新しいイメージを形成したといえる。

北道路に面した神社鳥居側にオープンスペースのある店舗を配置することで神社境内と連続性のある溜まりの空間を生みだした。また、西道路側の共同住宅はスリット状の開口部を設けた壁面を強調したデザインとすることで、近隣と居住者のプライバシーに配慮しながら生活が垣間見える面白さがある。

居住スタイルとしての試みも興味深い。全住戸が奥にプライベートな専用庭を持つ。歩道から路地裏のように連続し建物全体に巡らせた動線空間は、外部か内部なのか曖昧で、共用廊下として機能するところもあれば、サンルームとして各住戸に取り込まれている部分もある。居住者同士の新たなコミュニケーションも生まれ、それぞれが生活を楽しんでいる様子が覗えた。将来は高齢者用共同住宅への転用も視野にあるそうだ。未来の共同生活への新しい一歩につながったといえる。(藤本 香)

建築主：三山 正夫

設計：岩田伸一郎建築設計事務所

施工：株式会社DAISHU

所在地：船橋市三山7丁目1-1



西側からの鳥瞰



住戸内観

(撮影/新澤 一平)

9

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

歴史的な建造物の再生と活用

# ワーズワース佐原店

地域住民の熱意が実り、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた佐原。修理修景の実績がようやく建築群を構成する町並みとなって再生が軌道に乗った矢先の東日本大震災。直後に訪れた佐原の町は、伝統的建造物の大半で、瓦が落ちたり土蔵の壁が崩れたりと大きな被害を受け、惨憺たる状況であった。

推薦建物も、経年による老朽化に加えて、今回の被災で倒壊の危険性が生じ、所有者は建物の解体を強く希望していたという。住民団体、行政が解体を食い止めたいと積極的に働きかける中、幸いにも新しい引き受け手(住人)が現れ、店舗併用住宅として見事に再生された事例。

工事は、昔の面影を残している「伝統的建造物」に選ばれている主屋(明治10年)と土蔵(明治17年)以外の後の時代に増築した部分を全撤去、保存建物の大がかりな破損個所の修理、構造補強が行われた。主屋と土蔵の間には客席と厨房を修景改造、この上部にはベランダを設置するなど、暮らしに必要な機能も伝建地区のさまざまな制限がある中でうまく解決されている。外観は復元を基本として修理され、内部は古材を活かしたモダンなレストランに蘇った。建物所有者、市民団体、職人、それを支える行政が一体となり、再生と活用に取り組んだ好事例として評価された。(夏目 幸子)

建築主：篠塚 光教

設計：サンライト設計事務所  
+空間香房ハートリ

施工：株式会社サンライト建設

所在地：香取市佐原491-1



空家を新たな所有者が店舗併用住宅として修理しスバゲッティ店として生まれ変わった。



小野川沿いのガス燈風照明と調和し、柔らかな雰囲気包まれる。

# 建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

大地の技術を通して迫る、建築の宇宙

## アース・ブリックス

建築主：T氏

設計：アトリエ・天工人

施工：小川共立建設株式会社

所在地：千葉市緑区

組積造の建築は開口部との折りが大きな課題となる。それは、気候風土が求める開口部のあり方と深い係りをもつこととは言うまでもない。環境に配慮した建築とは、そうした複合的な視点の統合として成立する。その際、その建築を支える構造と材料の資源性も主要な要素であることは明らかだ。最少限住宅ともいふべき魅力的な小さな家に、この要素に関する試みとして膨大な熱意と労力と知見の成果が投入された。その勾玉状の柔らかな平面で構成された、しかし迫力のある建築の佇まいは、幹線ロードサイドの商業施設に挟まれて、違和感を孕みながら砂利の丘に立ちあがり、周囲に異彩を放っている。

作者の思いは、施主のおおらかな度量と美意識に支えられ、独自に考案された手作りの「土ブロック」を曲線状に積み上げるという途方もない建築行為を通して実体化した。この稀有な取り組みを了としたい。ただし、ここに提案された構法が「地球環境の改善」を標榜し、建築資源の課題にまで踏み込もうとするならば、いくつかのレアケースで終わってはならない。だからこそ、一般的に望まれる内と外との開いた関係性に対して、組積造による構造体の宿命を超えた美しい答えを開発してほしい、と願わずにはいられない。

(岩村 和夫)



手作りの土ブロックは様々な風合いをもつ



密度をキーワードに素材を選定した  
(撮影/Toshihiro Sobajima)

### 選考の基準

1. 千葉県内において完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物(群)でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物(群)であり次のいずれかに該当するもの。
  - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物(群)と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
  - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
  - ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
  - ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

### 千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略 委員は五十音順】

第19回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数74点の中から6点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞選考委員会事務局)

# 千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数) 一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞				建築文化奨励賞
			景観上優れた	ユニバーサルデザインに配慮	環境に配慮	計	
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
13	H18	71	3	0	1	4	4
14	H19	53	1	1	1	3	5
15	H20	57	3	1	1	5	1
16	H21	68	2	1	1	4	4
17	H22	71	2	0	2	4	3
18	H23	108	2	1	3	6	3
19	H24	74	2	2	2	6	3
1~19	計	1,600	46	26	24	96	58

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。 ※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。  
 ※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設。(第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」)

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。その間、県下の広い地域にわたり、96の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。第20回の作品募集は、平成25年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

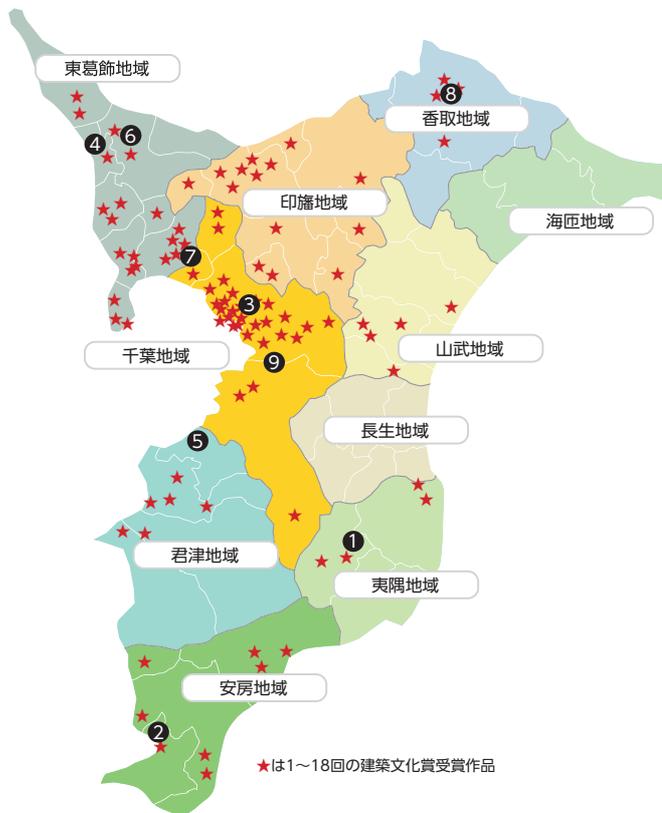
## 受賞作品の位置

### 第19回千葉県建築文化賞

- ① 大多喜町役場庁舎
- ② 桜井邸／多面体の屋根 館山
- ③ さくさべ坂通り診療所
- ④ 南流山の家
- ⑤ 雑木林のまち
- ⑥ 柏市立柏の葉小学校

### 第19回千葉県建築文化奨励賞

- ⑦ Mアパートメント
- ⑧ ワーズワース佐原店
- ⑨ アース・ブリックス



### 建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数	
千葉市	23
習志野市	1
八千代市	2
市原市	3
市川市	4
船橋市	5
松戸市	3
野田市	2
柏市	3
流山市	2
鎌谷市	1
浦安市	3
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	2
印西市	6
白井市	1
米町	1
成田市	1
富里市	1
香取市	4
山武市	1
東金市	3
大網白里市	1
大多喜町	3
いすみ市	2
鴨川市	3
南房総市	3
館山市	2
鋸南町	1
袖ヶ浦市	1
木更津市	4
君津市	1
富津市	1
計	96

## お問い合わせ先

### 千葉県県土整備部都市整備局建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 TEL.043(223)3181 FAX.043(225)0913

### 社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5 TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101



千葉県マスコットキャラクター  
チーパくん